

2022年度 課別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	課名	国際版画美術館	歳出目名	国際版画美術館費
				事業類型	d:事業型(施設運営・受益者負担)

1. 組織概要

組織の使命	優れた美術作品に触れる機会、および学習、創作、発表を通して美術に親しむ機会と環境を提供します。また、貴重な文化財である版画作品を収集・保管し、市民の財産として未来に伝えます。	取 り 自 治 体 等 の	国際版画美術館は世界的にも珍しい版画に特化した美術館であり、版画の鑑賞だけでなく、版画制作や美術作品の展示といった利用も可能です。なかでも版画制作を行う版画工房を一般に開放している公立美術館は、近隣では横浜美術館のみですが現在改修工事のため休館中となっております。				
所管事務	◆美術作品等の収集、保管及び展示、講演会等の事業の企画及び実施に関すること。◆版画に関する専門的、技術的な調査研究及び情報の提供、美術に関する教育普及及び広報活動に関すること。◆市民の美術学習及び団体活動の援助、施設及び設備の貸出し及び維持管理に関すること。						
基本情報	根拠法令等 町田市立国際版画美術館条例						
	2020年度	2021年度	2022年度	施設の名称	町田市立国際版画美術館		
利用料金収入 (単位:千円)	10,929	20,210	20,253	建設年月日	1986年8月1日		
受益者負担比率	3.3%	5.9%	5.8%	2020年度	2021年度	2022年度	
				有形固定資産減価償却率	35.7%	35.6%	36.9%

2. 2021年度末の総括と2022年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆2020年度よりも観覧者数が増加したものの、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準までは回復していません。今まで以上に幅広い層に魅力が伝わる展覧会を開催するほか、展覧会やイベントを開催する際にはインターネットやSNSをはじめとする様々な手法により国際版画美術館の魅力を情報発信するなど、来館者の増加につなげる取り組みが必要です。◆行政収入の増加に向けて、助成金などの積極的な獲得が求められています。◆多くの人に訪れてもらうため、美術館へのアクセス方法やキャッシュレス決済の導入について検討する必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

	短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
取組状況	<p>◆積極的にSNSを活用し幅広い層に情報発信を行うほか、オンラインプレスリリースを活用するなど、来館者数の増加に向けた広報活動に取り組みます。</p> <p>◆来館者の増加にむけて展覧会の期間に合わせた無料シャトルバスを運行します。</p> <p>○ ◆来館者の増加に向けた広報活動やシャトルバスの運行に取り組みました。◆TwitterおよびInstagramを活用し、SNSでの情報発信を374回実施いたしました。◆4つの企画展についてオンラインプレスリリースを活用いたしました。◆展覧会開催中の土日祝とシルバーデーを対象にシャトルバスを53日運行し、延べ3,646人の利用がありました。</p>	<p>◆「芹ヶ谷公園」芸術の杜”構想を実現させ、(仮称)国際工芸美術館と連携した展覧会の実施や、新設される工房を活用した新たなプログラム等の実施を検討します。◆改修工事により老朽化した設備の更新やミュージアムショップの充実など、今まで以上に楽しめる美術館を目指します。</p>

3. 事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
国際版画美術館展覧会観覧者数	人	目標	46,086	93,000	96,000	110,000	110,000	企画展および常設展示室ミニ企画展の観覧者数の合計
		実績	71,465	93,170	108,844		(2023年度)	
観覧料、施設使用料、特別観覧手数料収入	千円	目標	12,000	22,000	22,500	22,500	22,500	企画展観覧料、施設使用料、特別観覧手数料の合計額
		実績	10,929	20,210	20,253		(2023年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆2022年度は6件の企画展と5件のミニ企画展(特集展示)を開催しました。年間の展覧会観覧者数は2021年度より15,674人増加し目標を達成しました。また観覧料や特別観覧手数料などの収入も43千円増加しましたが、目標を達成することはできませんでした。◆春に開催した「彫刻刀が刻む戦後日本」展は会期終了前に展覧会図録が完売するなど好調だったこともあり、物品売払収入が2021年度より435千円増加しました。

4. 財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2012年度	2021年度	2022年度	差額	勘定科目	2012年度	2021年度	2022年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	113,222	124,138	124,506	368	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	2,860	8,265	9,912	1,647	保険料	0	0	0	0
物件費	159,069	131,841	146,216	14,375	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	111,931	96,711	105,864	9,153	都支支出金	10,730	0	0	0
維持補修費	21,754	2,623	3,345	722	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	20,308	20,210	20,253	43
補助費等	7,243	4,199	3,445	△ 754	その他	20,261	9,486	11,696	2,210
減価償却費	38,547	56,285	56,285	0	行政収入 小計(a)	51,299	29,696	31,949	2,253
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 297,401	△ 313,568	△ 318,591	△ 5,023
賞与・退職手当引当金繰入額	8,865	24,178	16,743	△ 7,435	金融収支差額(d)	0	△ 214	△ 190	24
行政費用 小計(b)	348,700	343,264	350,540	7,276	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 297,401	△ 313,782	△ 318,781	△ 4,999
特別費用(g)	0	2,689	0	△ 2,689	特別収入(f)	0	0	0	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	△ 2,689	0	2,689	当期収支差額(e)+(h)	△ 297,401	△ 316,471	△ 318,781	△ 2,310

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	補助費等
決算額の主な内訳	<p>総合管理委託料 75,087千円</p> <p>光熱水費 18,715千円</p> <p>通信運搬費 7,336千円 など</p>	<p>事業協力謝礼 1,158千円</p> <p>講師謝礼 894千円</p> <p>「ゆうゆう版画美術館まつり」負担金 699千円 など</p>
主な増減理由	燃料費高騰に伴う光熱水費の増加や、委託料の増加などにより、物件費全体で14,375千円増加。	事業協力謝礼や保険料が減少したことなどから、補助費全体で754千円減少。
勘定科目	維持補修費	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	<p>VF-5 排気ファン修繕 770千円</p> <p>直結形ダンパ操作器交換 495千円</p> <p>防排煙垂れ壁自動閉鎖装置取替修繕 418千円 など</p>	<p>物品売払収入 5,581千円</p> <p>芸術文化振興基金助成金 3,000千円</p> <p>受託販売収入 794千円 など</p>
主な増減理由	高額な修繕対応が増加したことから722千円増加。	助成金獲得額の増加や物品売払収入の増加などにより、全体で2,210千円増加。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
国際版画美術館年間入館者数1人あたりコスト	人	2022	168,475	2,081	△ 644	年間の入館者数が増加したため、入館者1人あたりのコストは2021年度よりも644円減少いたしました。
		2021	125,988	2,725	△ 407	
		2020	107,022	3,132	897	
開館1日あたりコスト	日	2022	306	1,145,556	△ 102,677	年間の開館日数が増加したことから、1日あたりのコストが2021年度よりも102,677円減少いたしました。
		2021	275	1,248,233	△ 103,505	
		2020	248	1,351,738	144,621	

④貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A		
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	23,298	23,092	△ 206		
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0		
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	12,967	12,967		
固定資産	事業用資産	有形固定資産	1,072,140	1,016,284	△ 55,856		賞与引当金	10,331	10,125	△ 206
		土地	0	0	0		その他の流動負債	0	0	0
		建物(取得価額)	2,258,181	2,258,181	0	固定負債	203,827	189,732	△ 14,095	
		建物減価償却累計額	△ 1,449,053	△ 1,504,909	△ 55,856		地方債	99,275	86,308	△ 12,967
		工作物(取得価額)	263,012	263,012	0		退職手当引当金	104,552	103,424	△ 1,128
		工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0
		無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	227,125	212,824	△ 14,301	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	純資産	2,561,700	2,520,916	△ 40,784	
		土地	0	0	0					
		工作物(取得価額)	0	0	0					
工作物減価償却累計額		0	0	0						
無形固定資産		0	0	0						
	建設仮勘定	0	0	0	純資産の部合計	2,561,700	2,520,916	△ 40,784		
	その他の固定資産	1,716,685	1,717,456	771	負債及び純資産の部合計	2,788,825	2,733,740	△ 55,085		
	資産の部合計	2,788,825	2,733,740	△ 55,085						

⑤貸借対照表の特徴的事項

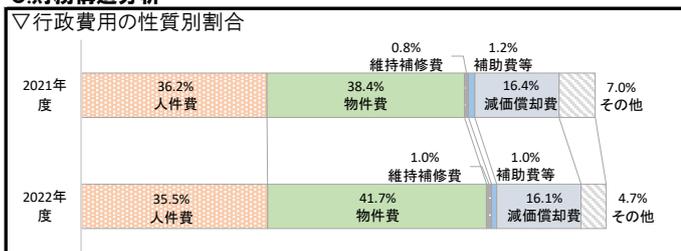
勘定科目	建物(事業用資産)	工作物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	美術館 2,258,181千円	屋外彫刻4点 263,012千円	収蔵美術品 1,617,027千円 定額運用基金 100,000千円 ゴルフ用プレス機 429千円
主な増減理由	減価償却により、55,856千円減少。	美術工芸品類は減価償却対象外資産。	受贈により収蔵美術品は1,200千円増加。 プレス機の減価償却により429千円減少。

⑥キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	31,949	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	295,778	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	12,967
行政サービス活動収支差額(a)	△ 263,829	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	△ 12,967
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 276,796
				一般財源充当調整額	276,796

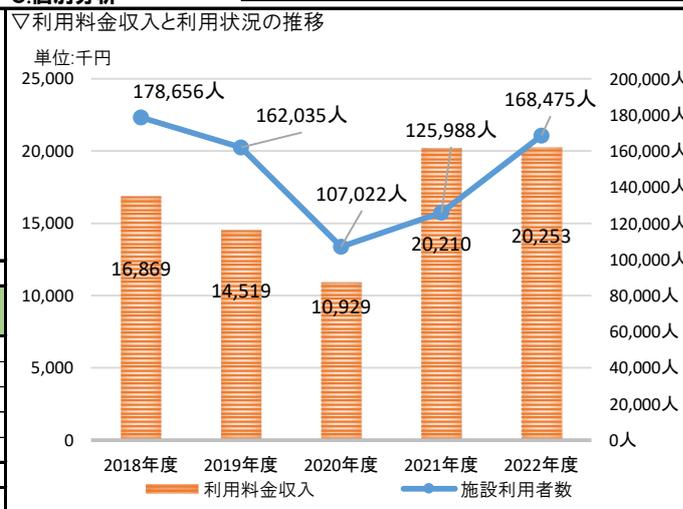
5.財務構造分析



▽事業に関わる人員 (単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度		2022 合計	2021 合計
				(業務)	(補助)		
管理事務	5.9		0.1	0.2	6.2	7.0	
展示事業	5.2		0.1	1.0	6.3	6.2	
ハイビジョン事業				0.8	1.5	4.2	4.3
普及事業	1.9				0.0	0.0	
2022年度 歳出目 合計	13.0	0.0	0.0	1.0	2.7	16.7	17.5
2021年度 歳出目 合計	13.9	0.0	0.0	0.8	2.8	17.5	

6.個別分析



7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

◆2022年度よりオンラインプレスリリースを活用した広報を行うようになったことなどもあり、年間の展示会観覧者数が約17%増加いたしました。◆行政費用については、物件費や維持補修費が増加したことなどにより、全体で7,276千円増加しました。◆行政収入については、助成金獲得額の増加や物品売払収入の増加などにより、全体で2,253千円増加いたしました。

②過年度データとの比較・分析

◆2012年度の維持補修費が高いのは緊急修繕対応のほか、に常用及び荷物エレベーター改修工事を行ったことによるものです。開館から35年経過し設備の老朽化もあることから、今後修繕工事が必要です。◆2012年度の行政収入の額が高いのは助成金の獲得額が2022年度よりも高く、また都交付金の交付を受けていたことなどによるものです。今後も助成金などの財源獲得に積極的に取り組む必要があります。

③2022年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆2021年度よりも来館者数が約4,200人増加しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準までは回復していません。今まで以上に幅広い層に魅力が伝わる展示会を開催するほか、オンラインプレスリリースによる広報やSNSの積極的な活用など、様々な手法により国際版画美術館の魅力を情報発信し、来館者の増加につなげる取り組みが必要です。◆行政収入の増加に向けて、助成金などの積極的な獲得が求められています。◆多くの人に訪れてもらうため、美術館へのアクセス方法やキャッシュレス決済の導入について検討する必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆積極的にSNSを活用し幅広い層に情報発信を行うほか、オンラインプレスリリースを活用するなど、引き続き来館者数の増加に向けた広報活動に取り組めます。◆大型企画展以外の展示会を含めたすべてのシルバーデーで無料シャトルバスを運行いたします。	◆「芹ヶ谷公園」芸術の杜”構想を実現させ、(仮称)国際工芸美術館と連携した展示会の実施や、新設される工房を活用した新たなプログラム等の実施を検討します。◆改修や修繕工事により老朽化した設備の更新やミュージアムショップの充実など、今まで以上に楽しめる美術館を目指します。

2022年度後期 作品収集状況

以下の作品が、2023年1月20日開催の2022年度第2回美術資料収集委員会で承認され、収蔵されました。

寄贈作品

No	作品概要	作品点数	評価額（円）
1	小野忠重旧蔵コレクション(浮世絵)	148	2,361,000
2	笠木實 版画	28	840,000
3	門坂流作品	21	1,950,000
4	藤田修版画作品	19	754,000
5	池田俊彦、井田照一、榎倉康二、若林奮作品	12	940,000
6	第47回全国大学版画展 町田市立国際版画美術館賞受賞作品	9	90,000
	計	237	6,935,000

寄託作品

No	作品概要	作品点数	
1	羽生雅則氏旧蔵浮世絵	1,119	
	(小 計)	1,119	

2022年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

展覧会名	版画×写真 1839-1900			担当者名	和南城・高野			
会期	2022年10月8日(土)から12月11日(日)			開催日数	56日間			
協賛・後援・協力	特別協力＝横浜市民ギャラリーあざみ野 助成＝公益財団法人朝日新聞文化財団							
巡回館	なし							
展覧会概要	19世紀の写真の発明は文化や産業などあらゆる面において世界を大きく変えた。イメージを写し伝えるという同じ役割を担っていた版画にとっても写真の登場は重要なターニングポイントとなった。初期の写真では不十分な技術を補う役割も果たしていた版画が、やがて複製技術としての実用的な役割を奪われるなかで、芸術表現としての道を選ぶ過程を追った。版画の視点から見た初期写真史である。ヨーロッパを中心に、版画と写真作品に加え、カメラや撮影機材などの関連資料180点を展示した。							
ねらい・対象	19世紀の版画と写真の関係は、新技術の写真に版画が実用的な役割を奪われたという結果だけが取り上げられがちであったが、写真が登場し、その印刷が実用化されるまでの期間を追うと、必ずしも一方的な影響だけではなかったことが見えてくる。当館でこれまで開催してきた19世紀の版画革新運動を扱った展覧会とも関連する企画である。対象は一般だが、写真に興味をもつ層を新たに対象とすることができた。							
関連催事	催事名		開催日	タイトル		講師等		参加者数
	講演会		11月5日(土)	「19世紀の写真技術～発明から普及まで～」		三井圭司(公益財団法人東京都歴史文化財団 学芸員)		35人
	ゆうゆう版画まつりイベント		10月22日(土)	「大事な写真をケースに入れよう」		担当学芸員		60人
	ギャラリートーク		10月29日(土) 11月20日(日)			担当学芸員		47人
	プロムナードコンサート		11月12日(土)	2×2=4Hands 4つの手で奏でる音色の世界		カノンデュオシスターズ(ピアノ) 嘉村えりか、嘉村ゆりえ		146人
	公開制作		11月26日(土)	「写真から版画へ」		藤田 修(版画家)		79人
観覧料								
	一般	大・高生	中学生以下	無料日 ・初日(10/8) ・シルバーデー(10/26、11/23)				
観覧者数 (現在)	900 円	450 円	無料					
	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、65歳以上	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	3,527 人	2,160 人	5,687 人	5,065 人	人	402 人	220 人	
主な収入 (現在)	目標値							
	観覧料収入		図録販売収入		受託販売収入		その他の特定財源	
事業経費	2,518 千円		857 千円		403 千円		—	
	・報償費				146千円		計 7,353 千円	
	・通信運搬費 輸送および展示・撤去委託				2,448千円			
	・事業・業務委託料 作品額装委託				721千円			
	・事業・業務委託料 広告宣伝委託				443千円			
	・作成委託料 ポスター等作成委託				3,045千円			
	・製作委託料 ディスプレイ等作成委託				550千円			
主な広報・取材等の講評		NHK Eテレ日曜美術館11月6日放映、朝日新聞夕刊11月8日「美の履歴書・精妙なりアルさ 何を生んだ」、東京新聞夕刊11月18日「美術評・100年の時を超える強さと美しさ」ほか						

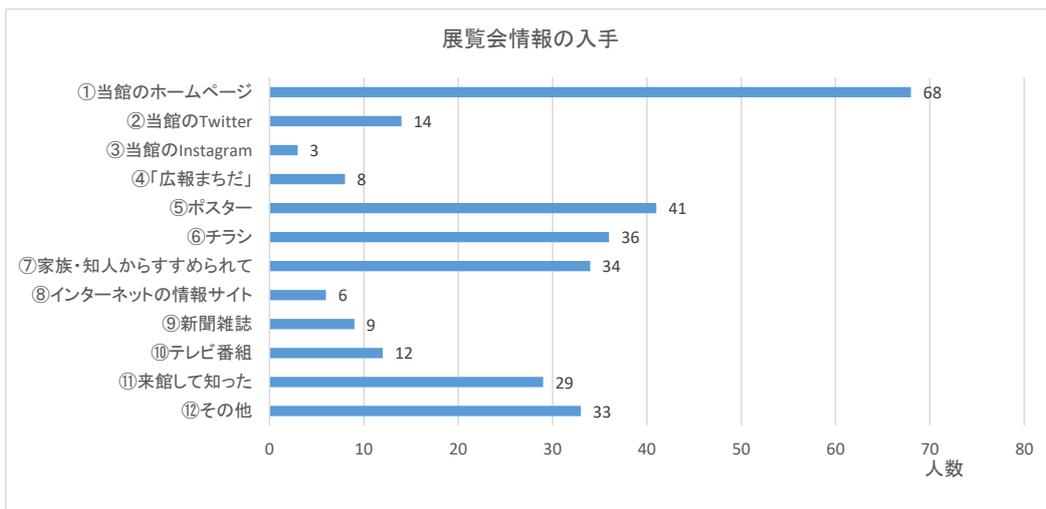
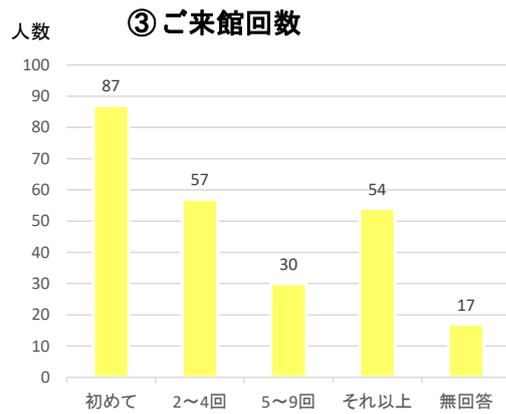
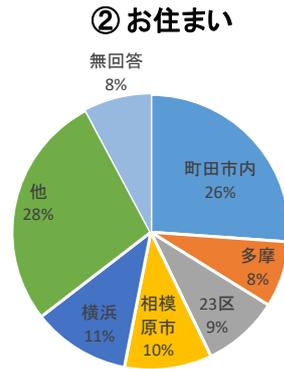
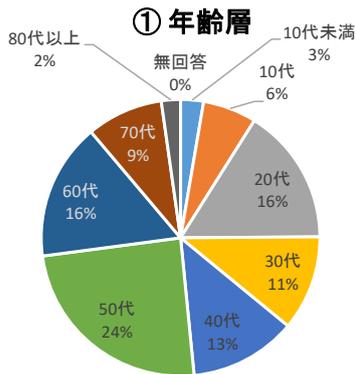
アンケート結果	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)		
					企画の内容	展示作品	展示の仕方等
	245 件	4.3 %	26 %	64 %	95.9 %	95.5 %	88.2
工夫と反省点と改善方法	主なご意見	別紙のとおり。					
	予備調査	初期写真の全般的な歴史について資料調査を行い、展覧会の概略を組み立てた。並行して、写真関係の作品・資料を収蔵する美術館・大学図書館等で所蔵調査を行った。とりわけ横浜市民ギャラリーあざみ野では、非常に多くの資料を調査させていただくとともに、その際にご教示いただいた知識が企画を組み立てていく上で大きな力となったことに感謝したい。また調査の過程で、研究者から写真と深い関りをもつ版画の存在を教えていただくことができ、これまで版画史において見落としていた部分にも気づくことができた。					
	作品選択	上記調査に基づき写真関連の作品および資料の選択を行った。版画については当館所蔵品を中心に組み立て、必要なものを他機関・個人から借用した。写真作品は全面的に借用する必要があったが、写真史の本に掲載されるような代表的な作品や、これまで外部に貸出を行ってこなかった作品を各機関よりご出品いただくことができ、歴史的展開を追える構成を組み立てることができた。国内に所蔵がない作例についてはパネル等で補った。					
	図録作成	気軽に手に取ってもらえるように、B5変形判の小ぶりな図録に仕上げた。カラー印刷の作品図版ページに短いコラム19本掲載、加えて作者作品解説、論文3本、年表、技法解説、参考文献を掲載、このテーマについて調べる人の入口となる資料ともなることを目指した。					
	ディスプレイ	急速に展開していく初期写真の技術を説明するため、文字による解説が多い展示となり、英文併記の章解説パネル6枚をはじめ、B2～A6半裁まで多くのキャプションを作成した。薬品名や技術を詳細に記すような説明は、観客が展覧会全体を把握するのをかえって妨げると考え、要点が伝わる短い文章になるよう心がけた。立体物が多く、順路に工夫が必要ではあったが、観客を飽きさせない展示になったのではないかと。					
	ポスター	版画と写真の変遷を追うという企画の性格、また出品作品のほとんどがモノクロであることから、メインビジュアルとなる作品を1点を絞り込むのに苦労した。最終的に気球の上から撮影する写真家を描いたドーミエのリトグラフを選んだことで、写真と版画の両者を扱った展覧会だと伝えられたのではないかと。					
	広報	ポスター800枚、ちらし40,000枚を作成、通常の送付先に加え、写真を扱うギャラリーや写真の専門学校への送付を行った。SNSで出品作品の解説を連続投稿し、展覧会の周知を図った。また、「長谷川潔展」に続きオンライン・プレスリリースを利用、さまざまな情報事業者に取り上げてもらった。こうした広報の結果、NHK日曜美術館、朝日新聞「美の履歴書」、東京新聞「美術評」などで取り上げられた。					
	作品輸送	借用先は都内8機関、神奈川2機関、埼玉1機関と限られた範囲であったが、国内にある主要な初期写真作品の多くを集めることができた。特別協力の横浜市民ギャラリーあざみ野からは名刺判写真から大型のカメラ、さらには撮影用椅子まで大小あわせて51点もの作品を借用、点検・梱包に長時間かかり、かなりの負担をかけてしまったが、丁寧なご対応をいただくことができた。					
	展示撤去	10月4日(火)から3日間で展示作業を行った。立体資料も多く時間がかかることが予想されたが、各セクションの大まかな区割りを決めておき、2名の担当者で分担して作品配置を行うことで作業が効率化できた。東京都写真美術館と横浜市民ギャラリーあざみ野から学芸員の展示立ち合いがあり、ダゲレオタイプへの照明の当て方など指示していただいた。					
	展示室内の撮影	基本的にすべて撮影可とした。一部の作品は所蔵者の指示により撮影不可としたが、まとめて展示していたため、表示が分かりにくいといったトラブルはなかった。写真に興味がある来場者が多くせいか、好意的な声が多かったが、シャッター音がうるさいという苦情がやはり見られた。展示室での撮影を許可するようになって何年か経つが、マナーを定着させることの難しさを感じる。					
イベント	三井圭司氏の講演会では動画を交えながら、ダゲレオタイプなど初期の写真技術をわかりやすく解説していただいた。公開制作ではフォトエッチングとフォトポリマーグラブュールで制作を行っている版画家の藤田修氏に実演を交えながら技法をご説明いただいた。ゆうゆう版画まつりではチェキで撮影した自分の写真を紙のケースに入れる簡単な工作イベントを行い、家族連れを中心に多くの参加者があった。						
その他特記事項	会期中に高ヶ坂小学校からの依頼で4年生全員の鑑賞会を行った。今回の展示は文字解説が多く、デジタル写真世代の児童が理解し興味をもつのは難しいのではないかと危惧していたが、それぞれが興味のある作品を見つけ楽しそうに鑑賞していたのが非常に印象的で、学校での鑑賞教育の効果が感じられた。ギャラリートークなどではつつい知識を教えがちだが、作品を楽しみ、自ら考えるという美術館教育の新たな可能性を感じさせる出来事だった。						
館長からの指導点							
運営協議会での検証							

「版画×写真 1839-1900」展

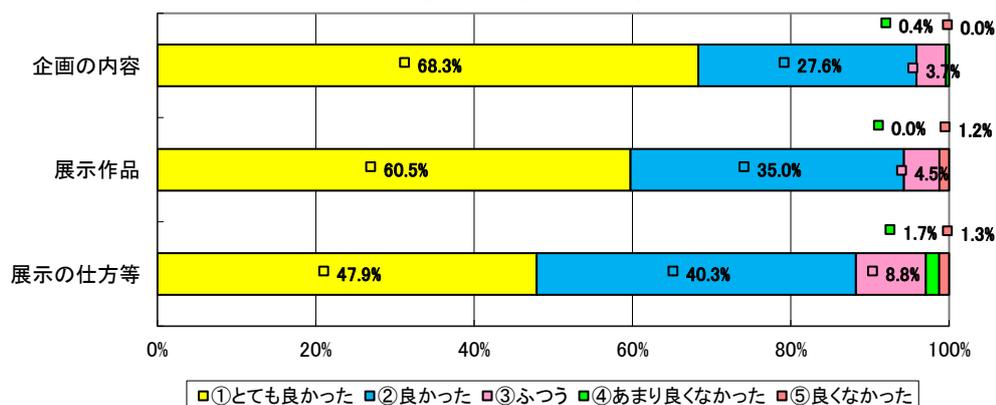
アンケート集計結果

開催期間：2022年10月8日（土）～12月11日（日）

回答者数：245人（総入館者数：5,687人 アンケート回収率：4.3%）



⑥ 回答者の満足度



⑦ 主なご意見・感想

展示方法

図入りの技法解説・説明文が分かりやすい／解説の量が必要十分／キャプションの文字が大きめで読みやすい／文章にユーモアがある／順路が分かりやすい／難しい内容を飽きさせることなく見せてくれた。

説明を理解するのが大変だった／もっと細かい説明がほしい／順路が分かりにくい／照明が暗い／ライトの当て方が悪い(ダゲレオタイプ、ケース内)／年表に日本の出来事をいれてほしい／簡単でいいので作品解説の英訳がほしい。

出品作品について

初期の写真や実際の機材を見られてうれしかった／これまで知らなかった興味深い作品があった／何度も見たくなる素晴らしい作品ばかりだった／技術と芸術の進歩が分かりやすい作品と解説パネルで示されていた／貴重だが展示の機会が少なかった作品を掘り起こした担当者の調査研究力に感心した

圧倒的な力がある作品がない／芸術志向になった版画の展示がほしかった／日本の状況の展示もあればもっと身近になった

企画内容

写真と版画を対比するテーマが面白かった／写真と版画の役割や変遷、相互の影響がわかった／技術、文化、メディア機能など多角的かつ包括的な展示だった／オリジナリティのある企画、考えたことのないテーマ／ニッチなテーマで楽しめた／続編を希望／分野を越境し橋を架けるような展示を今後も期待／マニアックな掘り下げ方が版画美術館らしい／充実したキュレーション／企画した人と友だちになりたい／意欲的な企画を認める環境が素晴らしい

感想

写真のもつ芸術性と商業性について考えさせられた／写真の客観性について考えさせられた／写真で記憶や記録を残せることの重要性に気づかされた／技術が人間の向上心や欲で発展することを改めて感じた／新技術によって社会が変化するのは今も昔も変わらないことに気づけた／AI技術が普及する現代への視点ともなる内容

その他

撮影可でよかった／撮影の音が気になった／シャトルバスを平日も含め増便してほしい／小声でしゃべったら注意されて不愉快だった／特別協力の横浜市民ギャラリーあざみ野は距離的に近く、相互展にすればよかった

⑧ まとめ

アンケート結果の特徴として、回答者の70%以上が50代以下という点があげられる。写真といえば当然デジタルを思い浮かべる、むしろそれしか知らない世代が、金属板や印画紙に焼き付けられた物質としての写真にかえて興味をもったのかも知れない。横浜市民ギャラリーあざみ野の全面的な協力により、初期写真や機材を多数展示できたことも効果的だった。特にダゲレオタイプ作品はその精細さと美しさが注目を集めたが、鏡のように光を反射するためライティングに苦労した。各所蔵機関のご協力により、写真史の本に掲載されるような代表的な作品や、これまで外部に貸出を行ってこなかった珍しい作品が展示できたことも好評価につながったのだろう。

写真の発明が19世紀の版画に与えた影響については、「版画の冒険」(2012)など過去の企画展でも言及してきたが、ここまで写真を大きく取り上げたのは当館では初の試みであった。写真史を版画の視点から見るという企画が版画専門館ならではの点として評価されたと感じた。担当者もこれまで見落としていた点に多く気づかされ、再度扱いたいテーマとなった。現代の問題に引きつけた感想が見られたことも特長的だった。

2023年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

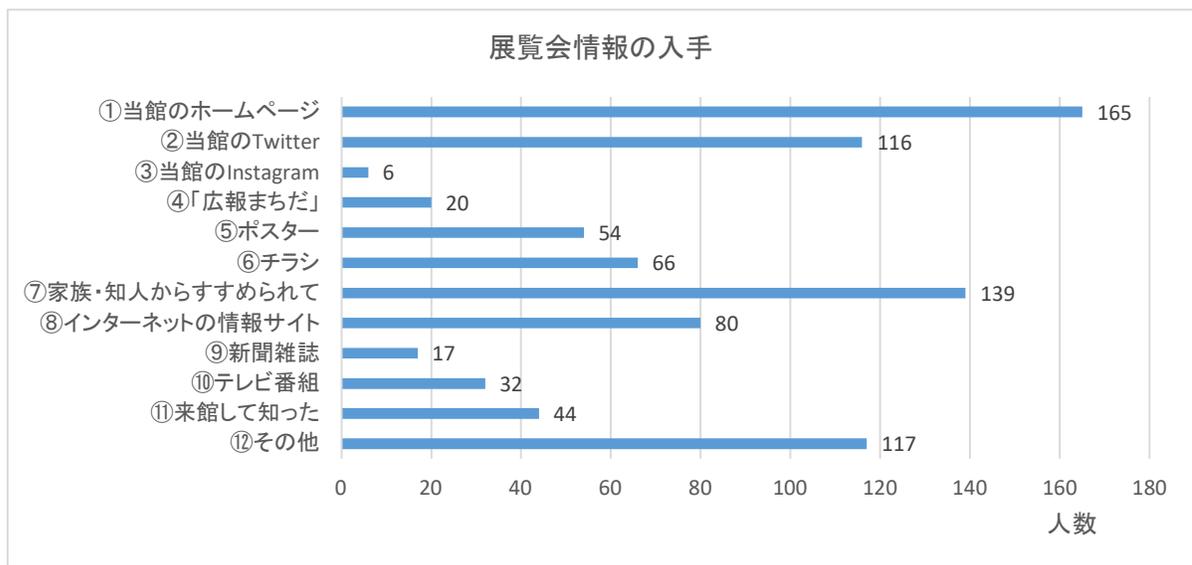
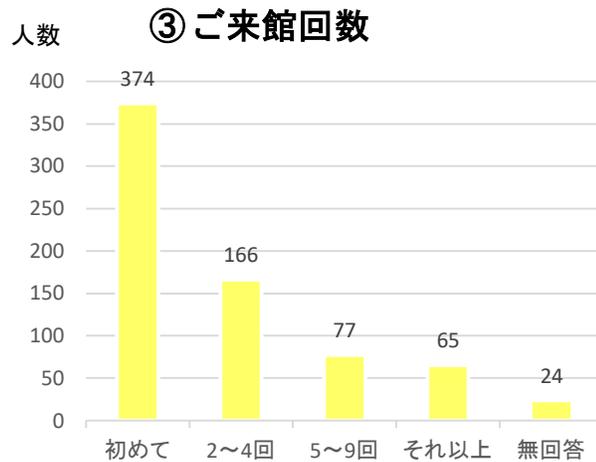
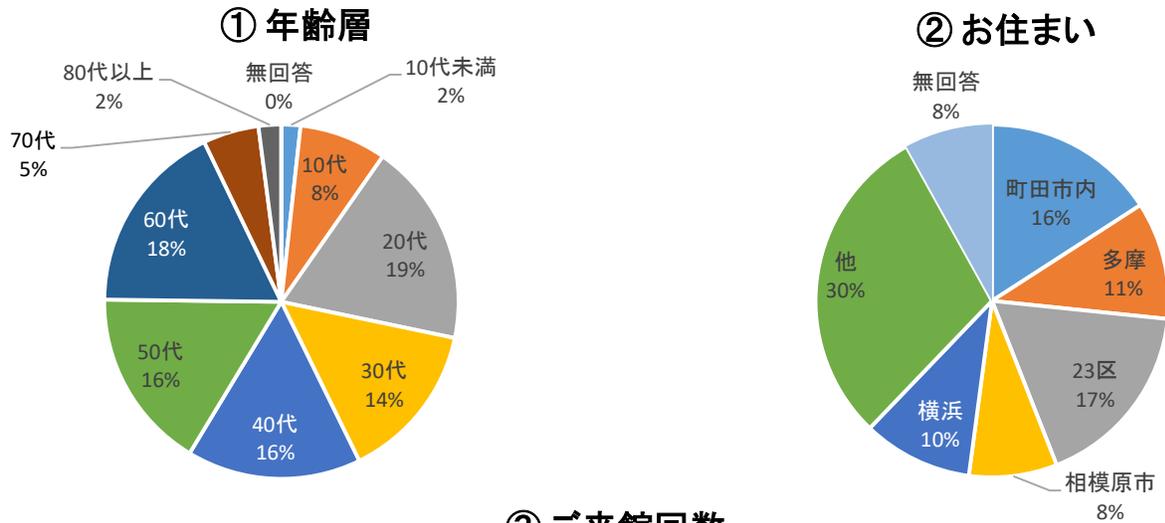
展覧会名	自然という書物—15～19世紀のナチュラルヒストリー&アート—		担当者名	藤村拓也			
会期	2023年3月18日(土)～5月21日(日)		開催日数	56日			
協賛・後援・協力	なし						
巡回館	なし						
展覧会概要	15世紀から19世紀までの西洋のナチュラルヒストリー(自然誌)とアート(美術)のつながりに注目し、人間が表してきた自然のすがた・かたち(画像)を紹介した展覧会。古くから人間は動物や植物をはじめ、肉眼では捉えることができない生物、さらには地球上の地勢などを記録してきた。本展では、記録された自然の普及に活字や版画などの印刷技術が大きな役割を果たしてきたことに加え、自然が美術の靈感源となってきたこと、美術の表現手法が自然の図解に用いられてきたことにも注目。ナチュラルヒストリーとアートのつながりによって、西洋の紙上に築かれてきたさまざまな自然のすがた・かたちを、版画や書籍などをつづじて展覧した。						
ねらい・対象	<p>博物画を中心とした版画によるイラストレーション(図解)の歴史をたどることで、自然がどのように記述・描写されてきたかを概観できる構成とした。また想像上の動植物をはじめ、顕微鏡の世界から極地までの自然のあらゆるすがた・かたちを紹介することで、自然がどのように見られ、考えられてきたのかも明らかにすることを狙った。</p> <p>さまざまな動植物を対象とした博物画や書籍の挿絵を展示することで、版画を中心とした美術の愛好者だけでなく、自然や書物に関心のある観覧者を対象とした。さまざまな版画の技法によって紙面に再現された自然物や自然の形態を活かした装飾意匠などが、アートやデザインの制作現場で活動する観覧者の参考になることも想定しつつ展覧会の準備を進めた。</p>						
関連催事	催事名	開催日	タイトル	講師等	参加者数		
	記念講演会①	4月15日(土)	イギリスと自然 —書物、室内から庭へ、そして田園都市へ—	菅靖子	39人		
	記念講演会②	5月21日(土)	科学とアートの悩ましき葛藤 華麗なるルネサンス博物図譜の世界	桑木野幸司	90人		
	スペシャルトーク	4月1日(土)	BHチャンネル×版美 YouTube生配信!!	ヒロ・ヒライ 橋本麻里 山本真光 担当学芸員	3070人 ※8/31時点の 視聴者数		
	子ども講座 —みてみてつくろう—	3月25日(土)	自然の絵本をつくる	杉浦幸子 上村牧子(普及係学芸員)	27人		
	ポップアップストア	5月3日(水・祝)～ 5月5日(金・祝)	dubhe(古版画・博物絵はがき) 古書ドリス(古本) うみねこ博物館(昆虫標本・博物雑貨)	—	670人 ※来店者数		
	プロムナードコンサート	4月29日(土)	音を楽しむ 自然と楽しむ	Duo Iris (真野種子:バイオリン) (後藤加奈:ピアノ)	185人		
	ギャラリートーク	4月8日(土) 5月6日(土)	担当学芸員によるスライドトーク	担当学芸員	39人 51人		
観覧料	一般	大・高生	中学生以下	無料日			
	900円	450円	無料	・初日:3/18 ・開館記念日4/19 ・シルバーデー(65歳以上無料):3/22、4/26			
観覧者数	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	7,855人	2,507人	10,362人	9,178人	894人	290人	0人
	目標値	9,337人					
主な収入	観覧料収入	図録販売収入	受託販売収入	その他の特定財源			
	5,714千円	1,903千円	880千円	—			
事業経費	・講師謝礼	45千円					
	・原稿執筆謝礼	225千円					
	・展覧会協力謝礼	285千円					
	・展覧会出陳謝礼	50千円					
	・通信運搬費	3,730千円					
	・作品額装委託料	1,019千円	10,500	千円			
	・広告宣伝委託料	473千円					
	・ミュージアムグッズ作成委託	220千円					
	・ポスター等作成委託料	3,430千円					
	・ディスプレイ作成委託料	1,023千円					

主な広報・取材等の講評	【TV放送】日曜美術館(アートシーン) 【新聞】読売新聞、東京新聞、朝日新聞、日本経済新聞、産経新聞、共同通信配信記事、都政新報ほか 【雑誌】美術の窓、an'an、Ozmagazine、Hail Mary Magazine、月刊ギャラリー、BRAIN、週刊文春、CONFORTほか 【ウェブ】Sfumart、rakukatsu、artscapleほか						
アンケート結果	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)		
	706 件	6.8 %	16 %	44 %	企画の内容	展示作品	展示の仕方等
	706 件	6.8 %	16 %	44 %	97 %	97 %	83 %
	主なご意見	別紙のとおり。					
工夫と反省点、改善方法	予備調査	2022年1月頃から文献調査を中心に展覧会の骨格を整え、また大まかな業務スケジュールを計画したのち、同年6月から美術館や大学図書館などでの作品調査を開始した。同時にイベント関係者への連絡と打ち合わせを適宜おこなっていた。展示構成の変更や追加の作品調査などによって、多少の遅れが出た作業もあったが、スケジュールに余裕をもって進めることができた。また当館所蔵の作品に関しては、2017年度に開催した「紙の上のいきものたち！！」展の内容や、当館紀要の第24号掲載「「デューラー風の犬」についての覚書」の研究成果を反映させた。					
	作品選択	当館の収蔵品約100点にくわえ、美術館や大学図書館14箇所から約140点を借用し、約240点による全4章の構成とした。第1章「想像と現実のあわい」と第2章「もっと近くで、さらに遠くへ」、そして第3章「世界を分け、腑分け、分け入る」では、編年によって出品作を展示。自然がどのように記述・描写されてきたか、どのように見られ、考えられてきたかを、歴史をおって概観できる内容とした。最終章の第4章「デザイン、ピクチャレスク、ファンタジー」では、博物誌と美術の混交ともいうべき作品を紹介した。版画技法によってリアルに再現された自然だけでなく、人間の想像力が生み出した作品も併置することで、学術性と遊戯性の両方を堪能できる内容を目指した。					
	図録作成	予算額と今までの発行部数を鑑み、1,200部印刷した。桑木野幸司氏(大阪大学教授)と菅靖子氏(津田塾大学教授)に巻頭論文の執筆を依頼し、担当学芸員と当館学芸員2名の計3名による論考も収録した。カラーページには全出品作を掲載し、第1章から第3章までの作品掲載ページに解説を、巻末に作品リストと参考文献リストを付した。販売価格を手に取りやすい2,000円(税込)に設定したことにくわえ、関連イベントでの宣伝やSNSでの口コミなどの影響もあり、売れ行きは好調であった。販売分の950部が会期半ばの4月30日に完売し、増刷を望む声がSNSやアンケートに寄せられた。					
	広報	委託業者によるプレスリリースの発信、広報まちだへの掲載、当館Twitter、Instagramでの告知を行った。展覧会開始の2ヶ月前にプレスリリースを発信したこと、担当学芸員の解説によるプレス向けの内覧会を開催したことで、ウェブと紙面ともに掲載が増えたと考えられる。またSNSを活用して、展覧会内容や関連イベントを積極的に行ったことが、観覧者や参加者の増員につながったと考えられる。なおポスターとチラシを印象深いものとするために、「自然という書物」という展覧会名にちなんで帯付きの書籍の表紙を想起させるデザインとした。					
	宣伝	駅貼り広告やSNS広告は実施せずに、ライブ配信番組「ニコニコ美術館」の収録を委託した。橋本麻里氏の進行のもと、担当学芸員が会場を巡りながら解説を行った。ライブ配信後も会期中は視聴することができたため、後述する関連イベントのYouTube配信と同じく、宣伝効果にくわえて展覧会の内容を予習・復習できる教育効果もあったと考えられる。また来館しにくい遠隔地の美術愛好者に当館の存在を知ってもらう機会にもなり、長期的な宣伝効果も期待される。なおニコニコ美術館の視聴数は、公開終了までに14,000をこえた。					
	ディスプレイ	書籍が出品作の大半を占める本展の場合、展示用のケースが乱立してしまい、動線が複雑になってしまったり、圧迫感のある展示空間になってしまったりする問題があった。鑑賞中のストレスが大きくと満足度に影響するため、壁内の展示空間を活用することで上述の問題の解消を狙った。また休憩用の椅子を多めに設置した。ただし200点を超える出品数であったため、順路がわかりづらい場所ができてしまった。ガラスやアクリルの保護面と書籍との間が離れてしまい、見にくいとの声も寄せられた。					
	輸送・展示撤去	借用先が多かったため、早めのスケジュール調整を行い、借用・返却ともに円滑に進めることができた。出品点数が多いことや書籍を展示するための台を作成する必要があることから、展示作業は5日間をかけて行った。事前準備や展示計画も入念に行ったが、想像以上に書籍の展示に時間がかかってしまった。作業人数をもう少し増やす必要があった。一方、展示替えと撤去は円滑に行うことができた。					
イベント	イベント数と関係者数が多いことから、早めの連絡や交渉を心がけた。また展覧会とイベントの内容をうまくつなげることで、来館者の増加を狙った。たとえばポップアップストアでは自然に関するグッズを扱う業者に依頼することで、自然愛好者にも足を運んでもらうことを企図した。また展覧会の内容をクイズ形式で紹介したYouTube配信では、出演者の既存のファンに本展に興味をもってもらうことを期待した。イベント関係者によるSNS上での宣伝もあって、いずれのイベントも多くの参加者が訪れた。						
その他特記事項	NHKで4月1日に放送された日曜美術館のアートシーンで本展が紹介された。くわえて上述の広報・宣伝やイベント関係者・参加者によるSNSでの口コミの相乗効果もあり、本展の観覧者数は目標値をこえる約10,000人となった。図録の完売にもSNS上の広報・宣伝や口コミが大きく影響したと考えられる。またニコニコ美術館やYouTubeでの動画配信によって、今まで当館を知らなかった層にも展覧会の情報が届いたことも、観覧者数の増加につながったと考えられる。						
館長からの指導点							
運営協議会での検証							

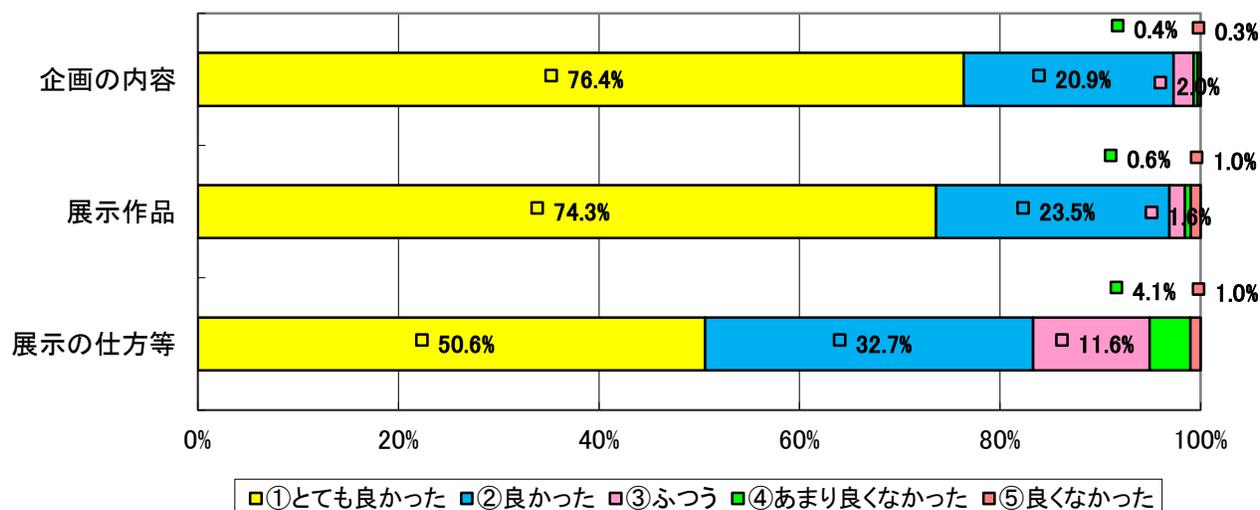
「自然という書物—15～19世紀のナチュラルヒストリー&アート—」展 アンケート集計結果

開催期間：2023年3月18日（土）～5月21日（日）

回答者数：706人（総入館者数：10,362人 アンケート回収率：6.8%）



⑥ 回答者の満足度



⑦ 主なご意見・感想

【企画の内容】

- ・展覧会の主旨が分かりやすかった。・稀覯本を見ることができる素晴らしい体験だった。
- ・キャプションが丁寧だった。解説文がよかった。・作品の選択・展示の量ともに良かった。
- ・作品・キャプション・全体のストーリーなど無駄も不足もなく満足できた。

【展示の仕方等】

- ・動線が分かりやすかった。・足元の矢印シールが分かりやすかった。
- ・書物の展示ページの対訳を添えてほしかった。・展示されたページ以外も見なかった。
- ・壁面ガラスの中がよく見えなかった。・暗すぎて細かいところが見えなかった。照明の映りこみが気になった。
- ・動線が分かりにくかった。・解説文が分かりにくかった。文字が小さくて見にくかった。
- ・撮影可能な作品があっといううれしかった。・カメラのシャッター音が気になった。

【その他】

- ・チラシやチケットなどの印刷物のデザインが素敵だった。・ファッション割引がうれしかった。
- ・シャトルバスを増やしてほしい。・売り切れた図録を増刷してほしい。

本展の総観覧者数は10,362人で、目標値の9,337人を超えた。20代から60代まで幅広い世代が観覧し、遠方からの来館も少なくなかった。初めて当館を訪れた人数も多く、YouTubeやニコニコ美術館での動画配信が影響したと考えられる。これらの動画だけでなく、SNSでの発信や口コミを見て来館したとの回答も多かった。

観覧者の満足度も非常に高く、展覧会の内容にかんしては肯定的な意見が多かった。ただし、出品点数が多かったために動線が複雑になってしまったことや、展示ケース内の作品が見にくかったことなどから、展示の仕方については否定的な意見が寄せられた。また今回は展示室での撮影を一部の作品に限定して許可したが、それでもシャッター音や撮影マナーについての苦情が少なくなかった。感想としては、本展のねらいであった西洋の自然観の変遷や自然科学と美術のつながりを面白く理解できたとの声が多かった。自然物をあしらった服飾品を身に着けて来館すると観覧料が安くなるファッション割引や関連イベントも好評だった。

2023年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

展覧会名	出来事との距離－描かれたニュース・戦争・日常			担当者名	町村悠香、川添愛奈		
会期	2023年6月3日(土)～7月17日(月・祝)			開催日数	39日		
協賛・後援・協力	なし						
巡回館	なし						
展覧会概要	当館収蔵品のなかから、ゴヤ、月岡芳年、浜田知明など時代や地域を超えてニュースや戦争をテーマにした作品約130点を展示するとともに、このテーマと響きあう制作を行う4人の若手作家を紹介し、合計150点を展示した。						
ねらい・対象	「出来事との距離」というタイトルを据えることで、ニュースや戦争を描いた作品とそれに対して画家や絵師がとったスタンスを相対化することを目指した。当館収蔵品だけでなく、若手アーティストの作品を紹介し、なかでも本展の全体テーマと通じる活動を行う松元悠を特集した。これにより現代アート関心層にも訴求する展覧会構成とし、若い世代にも当館収蔵品を知ってもらうことを試みた。						
関連催事	催事名	開催日	タイトル	講師等	参加者数		
	アーティスト・トーク	6月17日(土)	—	松元悠	41人		
	プロムナードコンサート	7月16日(日)	戦争と日常 音楽で描かれた情景	江澤隆行(ピアノ)	134人		
	ギャラリートーク	6月18日(日) 7月1日(土)	担当学芸員によるスライドトーク	担当学芸員	48人 27人		
観覧料	一般	大・高生	中学生以下	無料日			
	800 円	400 円	無料	・初日:6/3 ・シルバーデー(65歳以上無料):6/28			
	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	2,711 人	1,226 人	3,937 人	3,512 人	321 人	104 人	0 人
	目標値						5,946 人
主な収入	観覧料収入		図録販売収入	受託販売収入		その他の特定財源	
	1,712 千円		— 千円	535 千円		—	
事業経費	・講師謝礼			45千円		2,195 千円	
	・原稿執筆謝礼			9千円			
	・著作権使用申請委託料			8千円			
	・通信運搬費			496千円			
	・作品額装委託料			497千円			
	・広告宣伝委託料			143千円			
	・ポスター等作成委託料			491千円			
	・ディスプレイ作成委託料			506千円			
主な広報・取材等の講評	【新聞】朝日新聞文化面、東京新聞文化面(2回掲載)、中日新聞文化面、京都新聞 【雑誌】芸術新潮 【ウェブ】Tokyo Art Beat、ウェブ美術手帖、美術展ナビほか (新聞、雑誌、ウェブは全て展覧会レビューまたは松元悠インタビュー)						

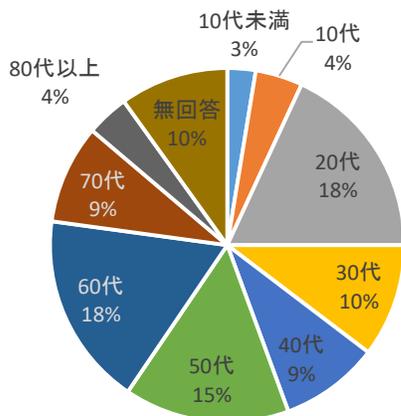
アンケート結果	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)		
					企画の内容	展示作品	展示の仕方等
	231 件	5.8 %	21 %	54.5 %	93.9 %	94.1 %	84.6 %
	主なご意見		別紙のとおり。				
工夫と反省点、改善方法	予備調査	2022年夏から企画を練り始めた。ゴヤの『戦争の惨禍』、浜田知明『初年兵哀歌』といった、当館でこれまで戦争がテーマの展覧会を開催した際に出品してきた名作だけでなく、新しい視点で収蔵品に光を当てられないか検討した。そこで戦争だけでなく報道も主題に加え収蔵品を出品し、若手アーティストの出品も依頼することにした。10月ごろに松元悠氏に出品を依頼し、松元作品を展示することを前提に全体の構成を検討をした。					
	作品選択	作品約150点を選定し、5章構成とした。1章から4章まではすべて当館収蔵品を紹介した。「1章 ゴヤが描いた戦争」はゴヤの『戦争の惨禍』から20点を展示。名作を最初に展示することで、展覧会の世界に引き込むことを目指した。「2章 戦地との距離」では浜田知明、『新日本百景』、畦地梅太郎、北岡文雄の作品合計約25点を展示した。浜田はゴヤの影響を受けており、1章から2章にかけては両者の作品が並びつつ、アジア太平洋戦争に関わる作品が展開していく流れとした。「3章 浮世絵と「報道」」では時代を遡り、戊辰戦争に着想を得た月岡芳年の『魁題百撰相』、錦絵新聞、西南戦争錦絵、日清戦争錦絵、浅井忠作品など約合計45点を展示した。時事問題が描けなかった江戸時代から、浮世絵が報道・戦争錦絵へと主題を広げる流れを示した。「4章 ニュースに向き合うアイロニー」では、昭和・平成期に社会的なテーマで制作した石井茂雄・郭徳俊・馬場禰男の作品約40点を展覧した。最後の「5章 若手アーティストの作品から」では、土屋未沙、小野寺唯、ソ・ジオ、松元悠の4名の作品合計約20点を紹介し、なかでも松元を特集した。松元はメディアやSNSが伝えるニュースの現場を訪れて想像を働かせ、当事者の姿を自画像で描くことで、日常と地続きにある「事件と人間の不可解さ」に分け入る活動をしている注目のアーティストであり、大学時代から現在までの作品を紹介した。なお、小野寺、ソ、松元は全国大学版画展受賞者であり、当館で収蔵している受賞作を活用した。					
	図録作成	A5二つ折りのリーフレットを作成し、無料配布した。内容は若手作家4人の略歴とステートメントを掲載した。					
	広報	ちらし・ポスターでは、松元悠氏の《蛇口泥棒》をメインビジュアルに使用した。若手アーティストの作品を起用することで、現代アート関心層にも訴求することを目指した。当館でこれまで戦争をテーマにした展覧会を行う際にはゴヤの作品をメインに据えることが多かったため、その差別化もはかった。					
	宣伝	新聞、ウェブメディアで複数の展覧会レビューが寄せられ、ウェブ美術手帖、Tokyo Art Beatで松元氏インタビューも公開されたため、展覧会後半にかけて来館者数が伸びた。特に、法廷画家の活動も行っている松元氏のアーティスト活動に注目が集まり、その視点からの取材を受けることが多かった。しかし会期が短かったため、レビューやインタビュー公開の集客効果を十分に発揮しきれなかった。アンケートでは展覧会情報の入手先が「⑦家族・知人からすすめられて」が2番目に多く、出品作家による宣伝や、来館者がSNSに感想を書いた口コミ効果が反映されたと考えられる。					
	ディスプレイ	5章の若手作家の作品展示では、それぞれの作品の個性が伝わるよう、スペースを広くとって展示した。また撮影可・不可エリアの区分けが混乱しないよう、5章の企画展示室2のみ撮影可能とした。					
	輸送・展示撤去	土屋未沙氏の作品はインスタレーション展示だったが、作家と事前の打ち合わせを行い、さらにリモートでやり取りすることで滞りなく展示することができた。					
イベント	松元悠氏は本展に合わせて漫画冊子『蛇口泥棒日記』を刊行し、ミュージアムショップで売れ行きが好調だった。冊子に関心を持つ層との相乗効果を期待し、松元氏によるアーティスト・トークでは、終了後にサイン会を実施した。						
その他特記事項							
館長からの指導点							
運営協議会での検証							

「出来事との距離—描かれたニュース・戦争・日常」展 アンケート集計結果

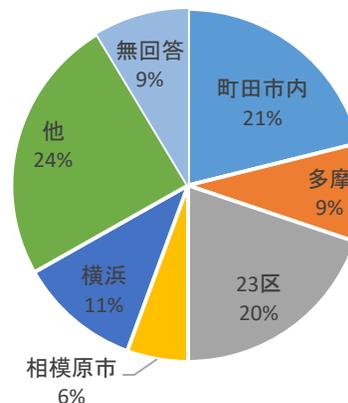
開催期間：2023年6月3日（土）～7月17日（月祝）

回答者数： 231 人（総入館者数：3,937人 アンケート回収率： 5.8%）

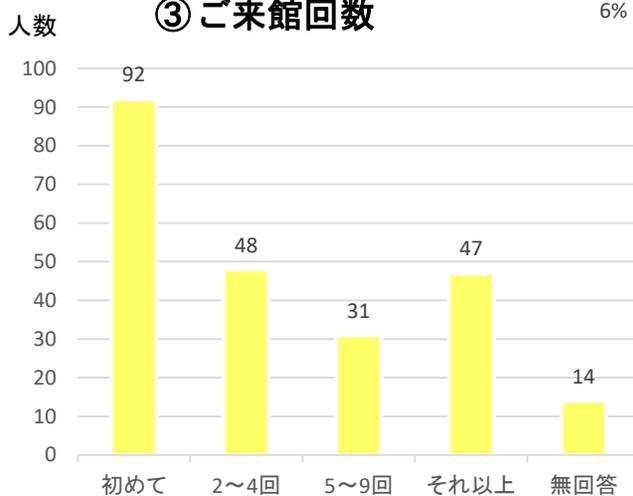
① 年齢層



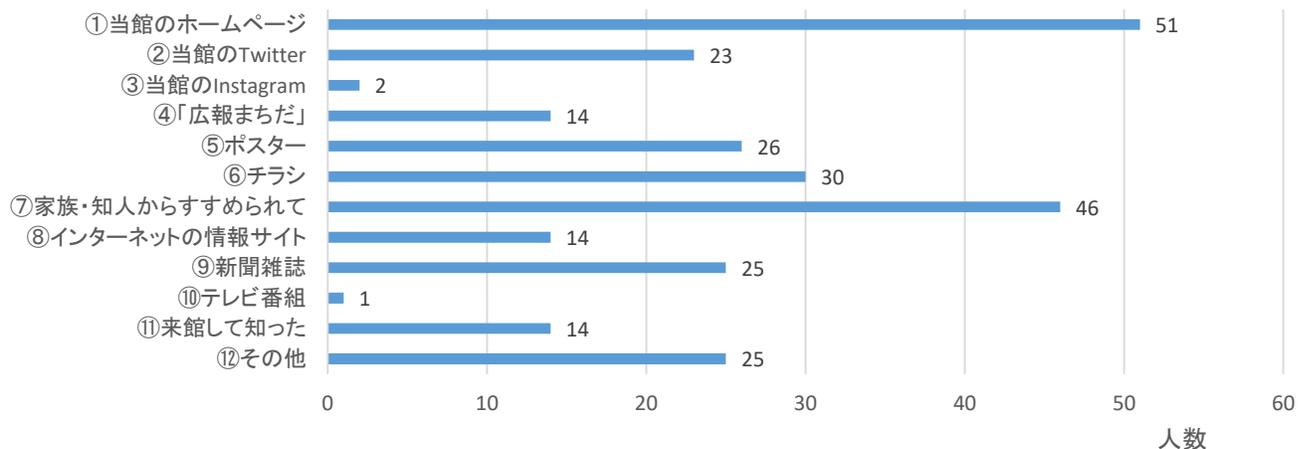
② お住まい



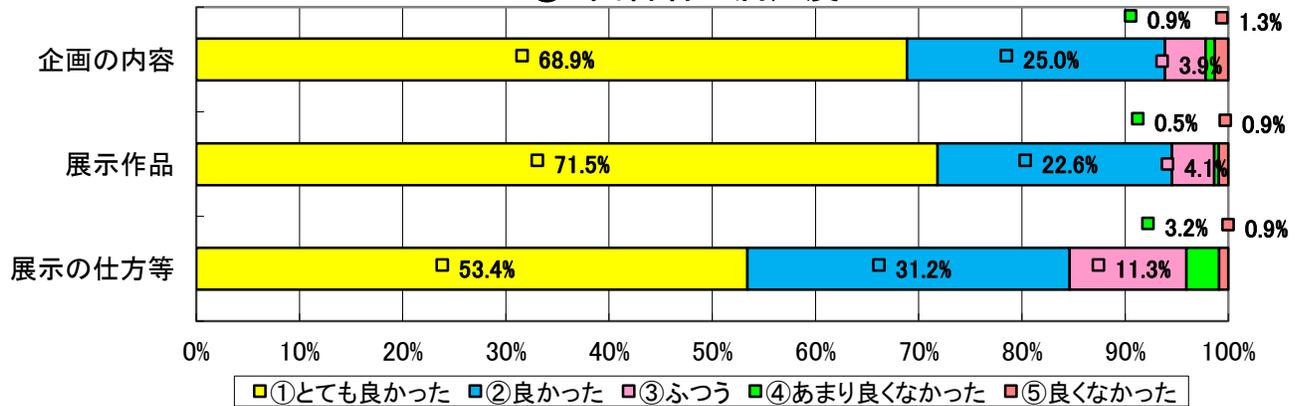
③ ご来館回数



展覧会情報の入手



⑥ 回答者の満足度



⑦ 主なご意見・感想

◆企画の内容

- 戦争画というと太平洋戦争(以降)の作品が取りあげられることが多いが、日清、日露などでの従軍画家の作品も沢山あるのに、見ることは少なくて...そんな作品も少しでも見ることができて良かったです。楽しい企画ありがとうございました。
- 收藏されていて、何度か拝見した作品(浜田知明など)も良かったです。若手作家の作品がとてもメッセージ性があり訴えかけてくるものがありました。特に松元さんの作品をもっと見たいです。
- 描かれたニュース、今時の若者は...とよく言われますが、今回の展示作品をみて70代の私は逆に気づきを教えられました。
- 「出来事との距離」というテーマで、昔や現在、国といった視点で多くの展示を観られてよかった。値段も払うのにそんなに苦しくなかったのも、行きやすかった。
- 若い人、子供たちにこそ見てもらいたい内容でしたが、時代背景などにある程度の共通認識がないと理解できない展示だとも思いました。作品を見て、考えて語り合うような子供向けの対話型WSがあってもよかったかもしれません。
- 戦争をはじめ、出来事の記憶をどのように残していくのかということに関心がある。
その点でアートは最もその媒体として適していると考えると同時に、いろいろな可能性を潜在的に有していると思う。いわゆるメモリースタディーズの視点からもアートの領域は重要な、中心的役割を担うと考えている。今回の企画でとりわけ面白かったのは最後の、今日の比較的若い人たちを取り上げたセクションでした。最近のソーシャリーエンゲージドアートの傾向も反映しつつ、直接的なメッセージというよりは、なかば挑発や異化のような作用をもちいて、社会的な問題・テーマやイシューを考えさせる。その姿勢はとても共感しました。ゴヤなどの古典的な名作とともにこのような作品の展示構成や企画の意図に非常に興味深い思いがいたしました。
- 今回の企画展どおり、面白く、なおかつ貴館の独自の路線に沿った展示会の企画を今後も継続してほしい。

◆展示作品

- 『新日本百景』畦地梅太郎の『満州』など 植民地下の朝鮮や台湾の風景画をゴヤや芳年と並んで見ることが出来、刺激的だった。アーティストトークも参加し、なぜそのニュースを選ぶのか、出来事の当事者とそれを見る(消費する?)作家・私達との間にある境界がどのように今後揺らぎあいまいになっていくのかが気になった。自分も何らかのニュースの当事者(報じられる側)になりうるだろうと思う。
- ふしぎなえ、せんそうのえ、こまかいはんが、とてもすごいさくひんでした。またきたいです。
せんそうのえは、せんそうのもっともざんこくさをしたし、ぎんざのえや大正6年しょうわのえもとくにすごかったです。

◆展示の仕方やキャプション、イベント

- ギャラリートークに参加しました。企画の意図がよくわかり、解説がきけて良かったです。もう少し作品にキャプションがあるとわかりやすいかも。
- 錦絵に書かれた文章に興味をひかれました。しかし、細かいくずし字で読み切れず、解題があるとなお理解が深められたと思います。

◆その他、感想・要望など

- シャトルバスにのれた事が感謝したいと思いました。中庭まであり予想より大きな所に思いとても良い気分でした。

2023年度・普及事業 2023年4月～2023年9月

1 版画講座

版画工房・アトリエにて開催される版木の講習会。様々な種類の版画を体験することができます。制作を通して版画の理解を深め、創作の楽しさを味わうことを目的としています。子どもを対象にした講座では、版画美術館ならではの楽しい制作体験ができるよう工夫を重ねています。

No	事業名	対象	概要（敬称略）	実施日程	会場	定員	参加延人数	うち小中学生	参加費
1	銅版画一日教室①	一般 (高校生以上)	版画の基本的な制作を一日で体験する。初心者から参加可。12×16cmの銅版を用い、ドライポイント技法で作品を制作。下絵は各受講生が持参。様々な方法で描きこむことにより深みのある作品作りを目指す。講師：馬場知子(版画家)	6/9(金) 10:30～16:00	版画工房	10人	9人	—	3,000円
2	銅版画一日教室②			6/10(土) 10:30～16:00	版画工房	10人	10人	—	3,000円
3	リトグラフ一日教室①	一般 (高校生以上)	各自用意した下絵をもとに、単色のリトグラフ作品を制作する。受講生は講師のアドバイスを受けつつ、様々な描画材を使ってアルミ版に描き込むことで、リトグラフならではの表現を体験する。初心者から参加可。講師：小森琢巳(版画家)	9/1(金) 11:00～16:00	版画工房	8人	8人	—	3,000円
4	リトグラフ一日教室②			9/2(土) 11:00～16:00	版画工房	8人	7人	—	3,000円
5	創作講座 リトグラフ 「描く×版画＝リトグラフの世界」	一般 (高校生以上)	4版多色刷りの作品制作を通してリトグラフの基本的な制作手順と表現を学ぶ。受講生が下絵を持参し、色版の分けかたや刷る色などを講師と相談しながら制作をすすめる。10回目は完成作品を囲んで鑑賞会を行う。講師：山口茉莉(版画家)。	9/13(水)～11/15(水) 13:30～16:30 水曜日10回	版画工房	10人	100人	—	30,000円
6	子ども講座① ちいさな本をつくる	小学3～6年生と その保護者	B3サイズの紙に色鉛筆やユニボスカ(顔料系マーカーペン)など様々な描画材で自由に線や形を描き、5cm角程に切そろえる。切った紙24枚はすべて1冊の本にしても良いし、受講生同士で交換しても良い。それらをページ組みを考えながら並べ、寒冷紗とボンドで背を貼り合わせて小さなオリジナルの本をつくる。講座の最後に参加者全員の作品を鑑賞し、それぞれ感想を述べた。講師：常田泰由(版画家)	5/6(土) 13:30～16:00	アトリエ	8組16人	7組14人	7人	1組2,000円
7	夏期子ども講座 妖怪たちの音楽祭①	小学3～6年生	東京学芸大学の学生ボランティア15人と指導教官が企画・指導をおこなう。「妖怪たちが音楽祭をひらいたよ」というテーマのもと、受講生は事前に妖怪の下絵を作成して持参。スクリーンプリントの技法で紙とTシャツに印刷した。版は背景(グラデーション刷り)と妖怪の主版(黒インク)の2版。講座終了後、子どもたちの作品と指導にあたった学生の版画作品を市民展示室で展示した。講師：清野泰之(東京学芸大学芸術・スポーツ科学系教授)	7/29(土) 10:30～15:30	アトリエ	15人	15人	15人	2,000円
8	夏期子ども講座 妖怪たちの音楽祭②			7/30(日) 10:30～15:30	アトリエ	15人	14人	14人	2,000円

2 学校教育への協力

町田市内の学校を中心に、美術部の体験学習や学校単位での団体鑑賞、出張授業などをおこなっています。版画技法について教員からの問い合わせに答えたり、教員研修会への講師紹介・道具の貸出しなどもおこなっています。

No	事業名	対象	概要（敬称略）	実施日程	会場	参加人数	参加延人数	うち小中学生	参加費
1	版画講座	東京都立小川高等学校 美術部	東京都立小川高等学校美術部3名(2年生)が参加。学芸員の指導によりアルミ版を用いたリトグラフ(単色)の作品を制作。リトグラフの表現の特徴などを学ぶ。	8/15(火) 10:15～16:00	版画工房	3人	3人	—	1,000円
2	体験学習	神奈川県立麻生支援学校 中学部	神奈川県立麻生支援学校 中学部生徒7人。講堂にて復刻浮世絵版木の摺り体験のほか、常設展示室での鑑賞をおこなう。	①9/28(木) ②10/5(木) 10:50～11:20	講堂	①7人 ②5人	①7人 ②5人	①7人 ②5人	—
3	教員研修会等への協力	千代田区立小学校教員	千代田区教育会図画工作部からの依頼により、夏季実技研修会を企画・実施した。【研修会内容：紙版を使用した凹版画の制作。版サイズ13.5×19.5cm、単色刷り、図工教員7人参加。講師：当館学芸員】	8/23(水) 13:30～16:30	版画工房	7人	7人	—	500円
4	教員研修会等への協力	町田市立小学校教員	町田市公立小学校教育研究会 図工部 夏季実技研修会開催にあたり、講師の紹介、内容・進行に対する助言、会場利用に関する調整等を実施。【研修会内容：講師・杉浦幸子による鑑賞学習の指導方法についてのレクチャー、およびグループワーク、図工教員31人参加】	8/25(金) 10:00～12:30	講堂	31人	31人	—	—

3 他機関への協力

美術館や大学からの依頼を受けて、調査・研究活動に協力します。

No	事業名	対象	概要	実施日程					
1	「秋岡芳夫全集6 銅版画」展 出品作品調査への協力	目黒区美術館	「目黒区美術館コレクション展 版画いろいろ+秋岡芳夫全集6銅版画」に出品予定の銅版画作品の技法調査。学芸員1名を派遣。	8/30(水) 9:00～16:00					

4 作品展

講座で制作した作品による作品展を、館内の市民展示室等で開催します。 作品を展示する機会を受講生に提供し、「発表する楽しさ」を経験してもらうことを目的としています。

No	事業名	対象	概要	会期	会場	出品状況	来場者数	うち小中学生	観覧料
1	夏期子ども講座作品展 「妖怪たちの音楽祭」展	どなたでも	夏期子ども講座(内容上記参照)の受講生と指導をおこなった東京学芸大学の学生による作品展。天井からTシャツを吊り下げ、扇風機の風によって揺れるように展示した。壁面には講座で制作した版画のほか、下絵用紙、制作についての感想文も展示。講座の様子をまとめた動画や制作手順の解説パネルを設置し、来場者に制作工程を分かりやすく伝える工夫をした。	8/8(火)~12(土) <5日間>	市民展示室	受講生29人 (58点) 大学生16人 (22点)	450人	111人 (推計)	無料

5 イベント、コンサート

気軽に参加できるさまざまなイベントを実施することで、より身近な美術館となるよう努めます。

No	事業名	対象	概要(敬称略)	実施日程	会場	定員	参加人数	うち小中学生	参加費
1	プロムナード・コンサートⅠ 「音を楽しむ 自然と楽しむ」	どなたでも	「自然という書物 15~19世紀のナチュラルヒストリー&アート」展関連催事 Duo Iris(デュオ・イリス) <真野謡子=ヴァイオリン、後藤加奈=ピアノ> エルガー:朝の歌、ドビュッシー:美しい夕暮れ、サラサーテ:序奏とタランテラ ほか	4/29(土) ①13:00 ②15:00 各回30分	エントランス ホール	①100人 ②100人	①100人 ②85人 立ち見含まず	①15人 ②8人	無料
2	プロムナード・コンサートⅡ 「戦争と日常 音楽で描かれた情景」	どなたでも	「出来事との距離—描かれたニュース・戦争・日常」展関連催事 江澤隆行(ピアノ) モーツァルト:トルコ行進曲、グラナドス:ゴイエスカスより 嘆き、またはマハと夜鳴き 鶯、シューベルト(リスト編曲):軍隊行進曲	7/16(日) ①13:00 ②15:00 各回30分	エントランス ホール	①90人 ②90人	①69人 ②65人 立ち見含まず	①5人 ②15人	無料
3	プロムナード・コンサートⅢ 「音楽の世界を旅する」	どなたでも	「版画家たちの世界旅行-古代エジプトから近未来都市まで」展関連催事 町田市内の大学で音楽を学ぶ学生による声楽、器楽。 ①玉川大学芸術学部 ベートヴェン:ピアノソナタ第23番・熱情 より第2、3楽章、C. シャミナード:コンチエル ティエノ、N. A. リムスキー=コルサコフ:トロンボーン協奏曲 ほか ②桜美林大学芸術文化学群 ドヴォルジャーク:スラヴ舞曲集よりop. 46-8ト短調、ロッシーニ:オペラ「セヴィリアの 理髪師」より 黙って、静かに静かに、ベッリーニ:オペラ「テンダのベアトリーチェ」より 私ひとりで ほか	9/9(日) ①13:00 ②15:00 各回30分	エントランス ホール	①100人 ②100人	①96人 ②100人 立ち見含む	①4人 ②5人	無料

6 版画工房・アトリエの一般開放

No	事業名	対象	概要	実施日数	会場	利用者数	使用料
1	版画工房・アトリエの一般開放	版画制作経験者	版画工房とアトリエを開放し、創作の場を市民に広く提供。 各種プレス機、腐蝕施設、ローラー等の備品のほかインクなどが使用できる。 毎週木曜、日曜、月2回の火曜に実施。 9時30分~17時30分(9時30分~13時30分と13時30分~17時30分) 定員:銅版画 10人 リトグラフ 6人 スクリーンプリント 8人 木版画 2人	年間124回実施	<版画工房> 銅版画 リトグラフ <アトリエ> スクリーンプリント 木版画	2023年4~8月(53回) 4,114人 <内訳> 銅版画 1,942人 リトグラフ 841人 スクリーンプリント 1,043人 木版画 288人	半日: 1,250円 一日: 2,500円

国際版画美術館 2024(令和6)年度 展示計画

資料7

	2024 3月	4月	5月
企画展示室 1 企画展示室 2	市美展 3(日)	16(土) 19(日)	版画の青春 小野忠重と版画運動
常設展示室	10(日)	13(日)	I 期 日本のグラフィック・デザイナーと版画 22(水)
	6月	7月	8月
企画展示室 1 企画展示室 2	1(土)	21(日)	3(土)
		収蔵品による企画展 43日	
常設展示室		新収蔵作品展	24(水)
	9月	10月	11月
企画展示室 1 企画展示室 2	29(日)		
	収蔵品による企画展2 50日		
常設展示室			
	12月	2025 1月	2月
企画展示室 1 企画展示室 2		10(金)	16(日)
		小中学校作品展	
常設展示室			
	3月	4月	5月
企画展示室 1 企画展示室 2 常設展示室			

2024年度 町田市立国際版画美術館 普及係 事業予定

	定員	参加費
◆版画講座 創作講座 スクリーンプリント(8日間)	10人	24000円
銅版画一日教室 ①	10人	3000円
銅版画一日教室 ②	10人	3000円
リトグラフ一日教室 ①	8人	3000円
リトグラフ一日教室 ②	8人	3000円
リトグラフ一日教室 ③	8人	3000円
リトグラフ一日教室 ④	8人	3000円
木版画一日教室 <年賀状> ①	16人	3000円
木版画一日教室 <年賀状> ②	16人	3000円

	定員	
◆子供講座 子ども講座 ① (1日間)	16人	1000円
子ども講座 ② (1日間)	16人	1000円
夏期子ども講座 ① (講座1日間 + 作品展示)	16人	1000円
夏期子ども講座 ② (講座1日間 + 作品展示)	16人	1000円

	参加見込数	
◆学校対象 版画講座 年5校程度	50人	500円
出張授業 年2日程度	150人	無料

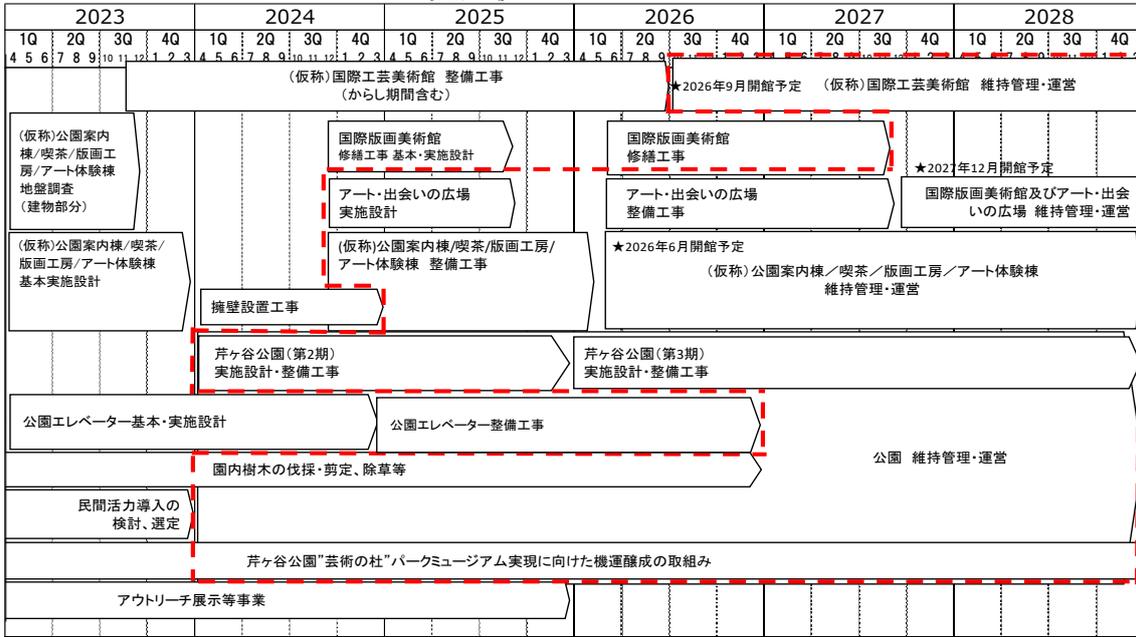
	来場見込数	
◆展 示 夏期子ども講座作品展	300人	無料
町田市公立小中学校作品展	15000人	無料

	来場見込数	
◆イベント プロムナードコンサート 年3回	各回 180人程度	無料
ゆうゆう版画美術館まつり (友の会と共催) 2日間	5000人程度	無料

	利用見込数	
◆一般開放 版画工房・アトリエの一般開放 124日	4500人	半日 1250円

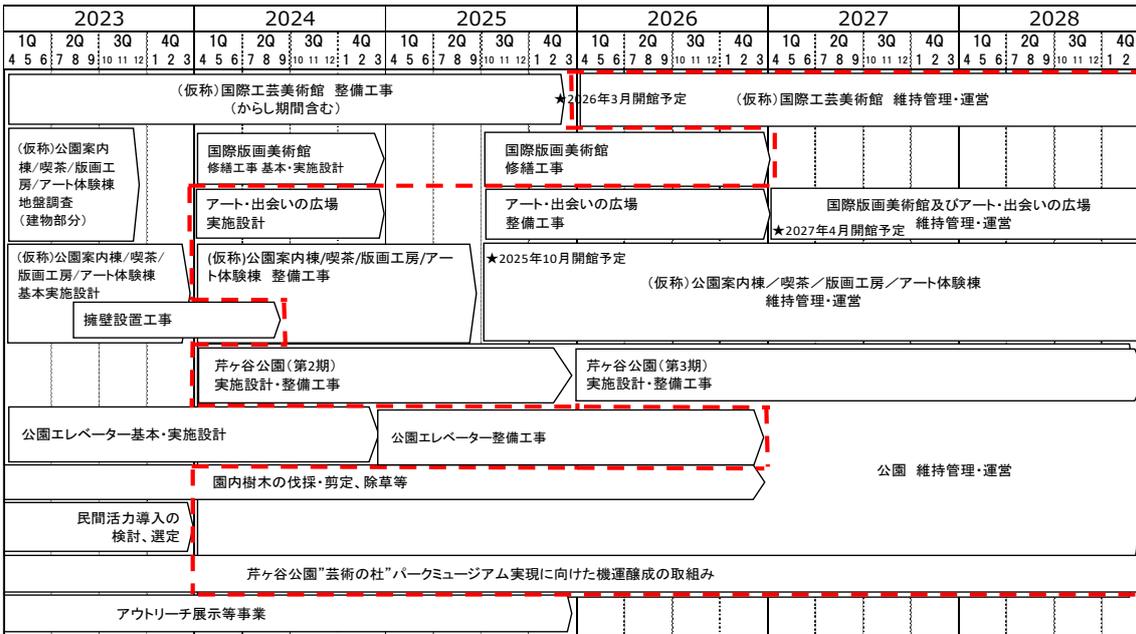
芹ヶ谷公園 “芸術の杜” パークミュージアム スケジュール

変更後スケジュール



...官民連携による事業範囲

変更前スケジュール (参考)



...官民連携による事業範囲